

2017年6月号の月刊美術 141p に
『銀座かわうそ画廊』を掲載いただきました

今月の注目展 ⑨

鈴木那奈個展 — 銀座かわうそ画廊(京橋)

静寂と沈黙の女性像



深い森 100×80.3cm キャンバスに膠、白亜、顔料、油彩



すずき・なな
京都市生まれ。2016年三菱商事アート・
ゲート・プログラム・チャリティー・オークシ
ョン出品。17年京都造形芸術大学大学
院修了。

鈴木那奈個展

会期 — 6月3日(土)～9日(金)

会期中無休

12時30分～19時

(最終日は16時まで)

会場 — 銀座かわうそ画廊

東京都中央区京橋3-6-21

十合(そごう)ビル3F

☎03(3535)3931



Ophelia I 24.2×33.3cm キャンバスに膠、白亜、顔料、油彩



Listening to silence
130.0×162.0cm
キャンバスに油彩

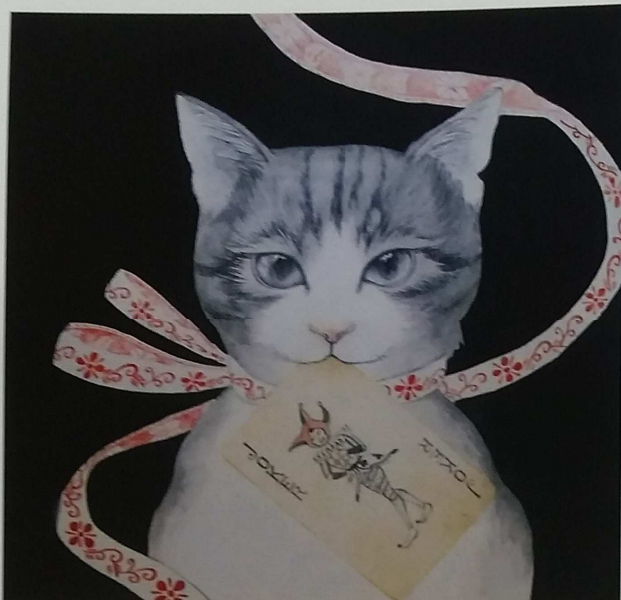
うつむく、眠る、じっと耳をすま
す……。

鈴木那奈が描く女性たちはどれも
動きを止めて、時間の経過から取り
残されている。それはまるで草原の
木立の陰で猛獣が通り過ぎるのを待
つ草食動物のよう。

テーマは一貫して静寂と沈黙。そ
れを象徴するのは黒衣をまとった静
かな面持ちの女性たちだ。実の姉と
自分自身がモデルとなり、うつむい
たりベッドに横たわって静寂の美を
見出した。それをクラシックな技法
と素材でモノトーン作品として描
いていく。

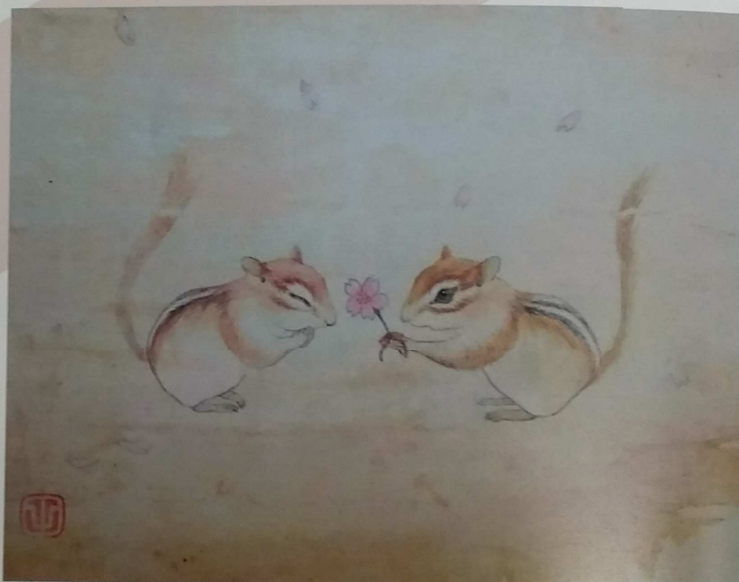
「光と影の繊細な表現を見て欲し
い」と画家。明と暗の微妙なコント
ラストで描いた20余点の新作で初個
展を飾る。

月刊美術 6月号 めだま堂に八田ゆかりさんが掲載。



《Confession》 サムホールS 日本画
27,000円(額なし)
ヒトコト：Confessionは告白の意。飼い主の気持ちを代弁して「切り札」で気持ちを伝えています。(N)

愛知県立芸術大学の日本画科というと片岡球子以来の院展の伝統をつなぎつづも自由な表現の若い画家が登場する土壌でもある。八田さんは、「生命の一瞬を切り取りたい」という思いからリスやネコといった小動物を描く。しかしリスは花のプレゼントを手渡し、ネコはジョーカーをくわえて意味深長な表情をみせるなど、野生そのままの姿ではない。人間的に描くことで、動物たちに親しみを込めているという。写生と意匠という日本画の二つの伝統を自分なりに消化してその間に自分の制作ポイントを発見するのが若い画家にとって最初にすべきことだと思う。八田さんはその第一歩を踏み出した。(N)



《告白》 3F 日本画 32,400円(額付)
ヒトコト：こちらはリスからリスへの愛の告白。(N)

告白するネコとリス
ARTIST FILE 045
八田ゆかり



はった・ゆかり
1991年愛知県生まれ。2016年愛知県立芸術大学日本画専攻卒業。17年銀座かわうそ画廊「八田ゆかり・安田渉 二人展 Loutre 未来へ」展。